JVC

D-ILA Projector DLA-V9R/V7/V5

ソフトウェアバージョンv3.50で追加される 機能および変更点のご紹介(抜粋)

1. 使用環境を解析し、最適な明るさでHDRを表示する「Theater Optimizer」機能^{**}

ユーザーの使用環境によって異なるスクリーンサイズとスクリーンゲイン情報の入力と、内部的に計測可能な明るさに紐づく 情報をインテリジェントに演算し、それぞれの設置環境に合った最適なトーンマッピングを自動で行う「Theater Optimizer」 機能を追加。コンテンツの解析を元に最適なトーンマッピングを行う「Frame Adapt HDR」と組み合わせることで、ホームシア ターにおけるHDR映像の再現性をさらに高めました。また、本機能の使用時にも18bitレベルのガンマ処理を行うため、明部 の階調段差や暗部の黒つぶれを抑え、高精度でなめらかなグラデーションを再現します。

※「Theater Optimizer」機能は、「Frame Adapt HDR」画質モード選択時のみ有効です。

2. 新たな設定の追加やメニュー構成の見直し

- (1)「Frame Adapt HDR」使用時に5段階の明るさ切り替えが可能 明るさを5段階(従来は3段階)で調整可能とし、より繊細かつダイナミックなHDR映像が楽しめます。
- (2)入力信号ごとに使用可能な「画質モード」のみを表示する「映像タイプ」メニューの追加

難しいマニュアルでのガンマ設定や色域設定を気にすることなく、入力映像に最適な「画質モード」の選択が可能です。 (3)コンテンツの色域情報に応じて最適な「カラープロファイル」に自動で切り替え

BS4K放送などのコンテンツ入力時に、色域情報に応じて最適なカラープロファイルが自動で切り替わるので、面倒な 手動での切替えが不要です。

(4)「Auto Pic. Mode Select」機能を追加

入力信号毎(SDR/3D/HDR10/HLG)に遷移する「画質モード」を設定可能です。

- (5)パナソニック株式会社製Ultra HDブルーレイプレーヤー「DP-UB9000」と連携する「画質モード」の追加 同機と簡単かつ最適に連携できる「画質モード」を追加し、従来のマニュアルによる個別設定を不要にしました。
- (6)キャリブレーションソフトの機能改善
- (7)「Color Profile」の一部名称変更や追加

ソフトウェアバージョンv3.50新機能の設定方法(取扱説明書抜粋)

Theater Optimizer

トーンマップでの全体の明るさレベルを、スクリーンのサイズやプロジェクターの状態から自動設定する機能です。

「スクリーンサイズ」「スクリーンゲイン」は「設置」→「スクリーン設定」メニューで設定してください。 ※1「映像タイプ」が「SDR」のときはメニューに表示されません。

※2「画質モード」が「Frame Adapt HDR」のときのみ設定できます。

1 「画質モード」で、「Frame Adapt HDR」を選択する。



2 Theater Optimizerを「オン」にし、選択する。(設定メニューに遷移)

»"	Ĩ	ť	W	0	>	ļ.	 ť	w	0
映像タイプ		オ	ート (HDR	10)	> Theater Op	timizer			
画質モード		Fra	me Adapt	HDR	Theater Optimi	zer	•	オン	Þ
その他設定							 		
					Optimize Level			中	
カラープロファイ	'JV	BT.2	020 (ノー	マル)					
色温度			HDR10		スクリーン	サイズ		100	
HDR Processing			シーン		スクリーン	ゲイン		1.0	
Theater Optimi:	zer	•	オフ	Þ			ス	クリーン影	定
HDR Level			オート						
MPC/e-shift								セット	
Motion Control									
			リセット						

Theater Optimizer

自動設定を行うかどうかを設定します。

設定	内容
オフ	明るさレベルの調整を手動で行います。
オン	プロジェクターの設定からスクリーン輝度を計算し、その結果に従ってトーン マッピングを行います。

3 「Optimize Level」を設定する。



Optimize Level

自動調整される映像の明るさをお好みで調整します。

・設定値:低、中、高



4 スクリーン情報を設定する。

「スクリーン設定」を選択すると、「設置設定モード」内の「スクリーン設定」メニューに遷移します。





スクリーンサイズ 「Theater Optimizer」機能を使用する際の、 視聴するスクリーンのサイズを設定します。 スクリーンゲイン

「Theater Optimizer」機能を使用する際の、 視聴するスクリーンのゲインを設定します。

MEMO

スクリーンサイズは、16:9を基準としています。

アナモフィックレンズを使わずに、シネマスコープサイズのスクリーンをお使いの場合には、横幅を 基準に16:9相当に変換してご入力ください。

(例:135インチ シネマスコープサイズ → 横幅を基準にすると16:9で約150インチ → スクリーン サイズに150と入力)

アナモフィックレンズを使用している場合は、「設置設定モード」より「アナモフィック」設定を行ってく ださい。

「アナモフィック」設定を行った場合16:9相当へのスクリーンサイズ変換は不要です。

5 スクリーン情報を設定後、「Theater Optimizer」を選択する。

「Theater Optimizer」を選択すると、「画質モード」内の「Theater Optimizer」メニューに遷移します。





「セット」を選択し、設定を反映する。



♥注意

「Theater Optimizer」メニューで「セット」を押すと、「スクリーンサイズ」「スクリーンゲイン」設定およびプロジェクターの状態が「Theater Optimizer」の自動設定に反映されます。

「Theater Optimizer」メニューで「セット」を押さない場合は、次回起動時または「設置設定モード」変更時に反映されます。

設定の計算の為反映にはしばらく時間がかかることがあります。

その他機能

HDR Level

「Frame Adapt HDR」を選択時トーンマップでの全体の明るさレベルを調整する機能です。

※1「映像タイプ」が「SDR」のときはメニューに表示されません。

※2「画質モード」が「Frame Adapt HDR」のときのみ設定できます。

※3「Theater Optimizer」が「オン」のときは使用できません。

設定	内容
オート	コンテンツのマスタリング情報(MaxCLL/FALL)をもとに、適切な明るさに自動的 に調整します。
-2	クリップポイント 600nits のトーンマップで表示します。
-1	クリップポイント 400nits のトーンマップで表示します。
0	クリップポイント 300nits のトーンマップで表示します。
1	クリップポイント 200nits のトーンマップで表示します。
2	クリップポイント 150nits のトーンマップで表示します。

映像タイプ

HDR10 や Hybrid Log-Gamma 等 HDR 規格のコンテンツは適切な画質モードで視聴しないと正しく表示されません。本機では「映像タイプ」を「オート」に設定することで、コンテンツに合った「画質モード」のみ選択可能となるので、 面倒な設定をすることなく簡単に最適な HDR 映像をお楽しみ頂けます。

※コンテンツやご使用のプレーヤーによっては自動で切り替わらない場合があります。

映像タイプ(※)	選択できる画質モード	内容
SDR	ナチュラル	自然な色彩・階調を重視した画質で、ドラマなどのビ デオ素材の鑑賞に適しています。
	シネマ	鮮やかな色彩を活かした画質で、映画全般の鑑賞に 適しています。
	フィルム V9R V7	映画フィルムの質感を忠実に再現した画質設定で す。
	THX V9R	THX 社が認定している画質設定です。
	User 1~User 3	お好みに応じて調整した画質データの保存・呼出が できます。
HDR10	Frame Adapt HDR	HDR10 コンテンツのフレーム毎の明るさを解析し、 自動的に調整する画質モードです。 独自の解析アルゴリズムにより、様々な明るさの HDR10 コンテンツを最適な画質でお楽しみいただ けます。
	HDR10	広い色域とコントラストを最大限活かした画質で、 UHD ブルーレイや、ストリーミングサービスなどの HDR10 コンテンツの鑑賞に適しています。
	Pana_PQ	パナソニック社 UHDBD プレーヤー専用の画質モー ドです。
HLG	HLG	HLG 放送用の HDR 規格である、Hybrid Log-Gamma コンテンツの鑑賞に適した画質設定です。
HDR10/HLG	User 4~User 6	お好みに応じて調整した画質データの保存・呼出が できます。

※映像タイプがオートの場合は自動的に判別された映像タイプ

自動画質モード設定

「映像タイプ」を「オート」に設定して、映像タイプが自動切り替えされたときの「画質モード」を設定します。

SDR(2D)/SDR(3D)

SDR(2D)、SDR(3D)信号入力時の「画質モード」の自動切り替え先を設定します。

設定	内容
ラストメモリー	SDR(2D)、SDR(3D)コンテンツ視聴時に最後に設定した「画質モード」にします。
ナチュラル	「画質モード」の自動切り替え先を「ナチュラル」にします。
シネマ	「画質モード」の自動切り替え先を「シネマ」にします。
フィルム V9R V7	「画質モード」の自動切り替え先を「フィルム」にします。
THX V9R	「画質モード」の自動切り替え先を「THX」にします。
User 1~User 3	「画質モード」の自動切り替え先を「User 1」~「User 3」にします。

HDR10

HDR10 信号入力時の「画質モード」の自動切り替え先を設定します。

設定	内容
ラストメモリー	HDR10 コンテンツ視聴時に最後に設定した「画質モード」にします。
Frame Adapt HDR	「画質モード」の自動切り替え先を「Frame Adapt HDR」にします。
HDR10	「画質モード」の自動切り替え先を「HDR10」にします。
Pana_PQ	「画質モード」の自動切り替え先を「Pana_PQ」にします。
User 4~User 6	「画質モード」の自動切り替え先を「User 4」~「User 6」にします。

HLG

HLG 信号入力時の「画質モード」の自動切り替え先を設定します。

設定	内容
ラストメモリー	HLG 視聴時に最後に設定した「画質モード」にします。
HLG	「画質モード」の自動切り替え先を「HLG」にします。
User 4~User 6	「画質モード」の自動切り替え先を「User 4」~「User 6」にします。

パナソニック UHD-BD プレーヤー DP-UB9000 との連携機能

DP-UB9000のHDRディスプレイタイプに合わせた専用のカラープロファイルと組み合わせることで、より階調の精度が増し、滑らかかつ立体感ある HDR 映像をお楽しみいただけます。

Step1:

DP-UB9000のHDRディスプレイタイプ設定画面から、「高輝度のプロジェクター」または「ベーシックな輝度のプロジェクター」を選びます。

Step2:

DP-UB9000 で、HDRトーンマップを「オン」に設定します。

Step3:

プロジェクターの「画質モード」を下記のように設定します。

1 「画質モード」を「Pana_PQ」に設定する

2 「カラープロファイル」を以下の表を参考に設定する

プロジェクターの カラープロファイル	DP-UB9000 の HDRディスプレイタイプ	映像への効果
Pana_PQ_HL	高輝度のプロジェクター	明るさを重視した設定で、ビデオコンテンツやピーク感のあ る映画などに最適です。
Pana_PQ_BL	ベーシックな輝度のプロ ジェクター	色再現性を重視した設定で、HDR ならではの広色域をお楽 しみいただけます。映画コンテンツ全般におすすめです。

※ HDR 用のガンマ設定は、カラープロファイルに含まれているため、プロジェクター側は上記の設定としてください。

3 「色温度」を「6500K」、「トーンマップ」を「Pana_PQ」に設定する